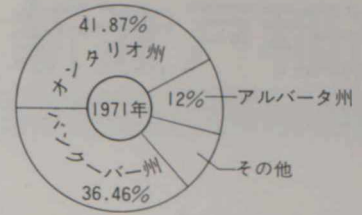
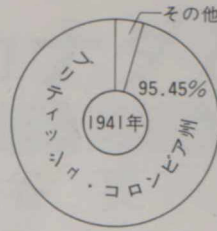


日系人の州別分布

	1901	1921	1941	1951	1971
ブリティッシュ・コロンビア州	4,597	15,006	22,096	7,169	13,585
アルバータ州	13	473	578	3,336	4,460
サスカチュワン州	1	109	105	225	315
サントラル州	4	53	42	1,161	1,335
オンタリオ州	29	161	234	8,581	15,600
ケベック州	9	32	48	1,137	1,745
大西洋諸州	1	6	5	19	160
ユークオンダ及び北西準州	84	28	41	45	55
全カナダ	4,738	15,868	23,149	21,663	37,260



▲木材伐採キャンプで働く初期の日系人。

カナダ全体の人口に占める割合こそ低いものの、今やその文化的多様性の完全な一部となった。

一九四九年に、日系人に対する最後の制限はとかれ、選挙権も回復した。日系人はカナダ社会に受け入れられ、彼らの社会的、経済的環境も著るしく好転した。成年期に達した日系三世の間では、日系人以外の婚姻率が八〇パーセントにもなるほどになったのは、驚くべき変わりようだといえよう。

二世が特に充足感を覚えるのは、以前と違って、人種的理由で雇用や昇進が差別されないことである。これらの勝利は、何といても彼らの努力のたまものである。再定住した二世は、ありつける仕事は何でもやり、勤勉と正直によって賞讃

を勝ちとった。昇進の道が開かれ、訓練や才能、あるいは資質によっていかなる分野にでも入っていきけるようになった。こうして今や、日系カナダ人はほとんどあらゆる分野で活躍している。

医師や弁護士、建築家、エンジニアといった専門職に二世は多いし、教師としてもあらゆるレベル、あらゆる領域で名をなしている。官界においては責任ある地位を確保し、製造業、商業、コンサルタント業、サービス業などで自営し、成功を収めている。

▼ショーヤマ次官



シヨヤマ次官、蔵省次官で、位を占めているのはトーマス・クニト・シヨヤマ大蔵省次官で、

一九三八年に発行された最初で唯一の日系英字紙「ニュー・カナディアン」の共同創立者でもある。州公務員としては、日本全域の二倍半の大きさのオンタリオ州で、天然資源省の魚・野生生物担当者、

これについて、トルドー首相は、昨年十月に訪日した際、次のように述べている——「カナダに対する彼ら（日系カナダ人）の貢献は、その数の少なさと釣り合わないほど大きく、われわれは彼らのもっている数々のすぐれた素質に感謝している」「実業界や学界、官界の最上層部に、日本名をもった人々が見つけられる。その多くは国民的名士といつてよいほど有名である」

こうした日系人の中でも最も有名なのは、遺伝学の権威で、ラジオとテレビで科学番組を担当しているデビッド・スズキ博士（三世）であろう。二世として最も責任ある地位を占めているのはトーマス・クニト・シヨヤマ大蔵省次官で、

カズオ・イリザワを上げることができる。心臓移植やガンの研究に参加するなど二世の医学に対する貢献も大きい。二世の女性として初めて博士号（動物学）を得たイレエヌ・アヤコ・ウチダ博士は、人間の染色体の研究で知られる。現在、マクマスター大学（ハミルトン市）の小児科教授をしている。

建築家として名をなした二世も少なくない。その中でも、特にトロントにあるオンタリオ科学センターやスカパーロー・タウン・センターを設計したレイモンド・モリヤマは最も有名。昨年設計したトロント市の地方美術センターは今年中

に完成する見込みである。造形美術の分野では、カズオ・ナカムラ（トロント）、タカオ・タナベ（ウィニペグ）、ロイ・キヨオカ（バンクーバー）が画家として高い評価を得ている。ナカムラの作品はカナダの大手美術館でもどこでも見られる。また、建築を専攻したノブオ・クボタは彫刻家としても知られている。芸術家でもあり作家でもある高島静枝

は、収容所での経験をもとに、自筆の挿絵を入れた「留キャンプの子供」という本を書いた。この本は日本語に翻訳されている（前川純子訳、強制収容所の少女）。カナダの文化的モザイクに対して日系人が日本的なものを持ち込んだとすれば、



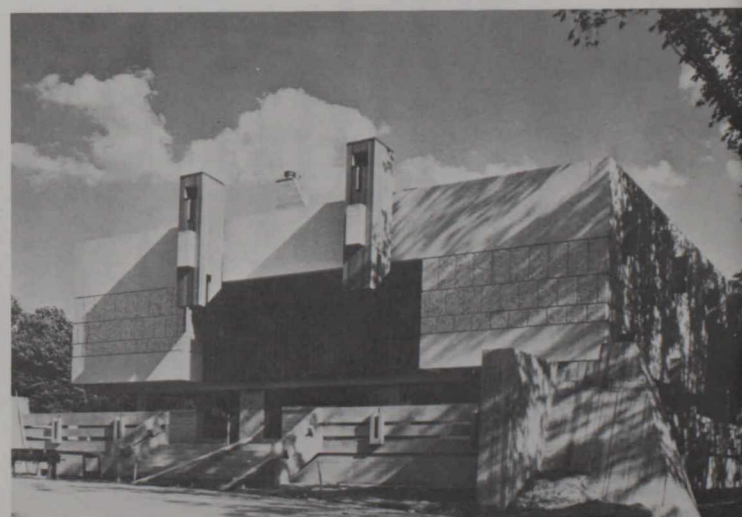
留キャンプの子供」という本を書いた。この本は日本語に翻訳されている（前川純子訳、強制収容所の少女）。

それは柔道や空手などの武術であろう。柔道は初期の移民が紹介したが、日系人以外の人たちにも柔道の指導がなされたのは一九三五年、騎馬警官の課目に加えられるからである。

日系、非日系にかかわらず、いけば花、盆栽、墨絵などに対する関心も高まっている。日系人の家庭では和食が喜ばれ、また仏教会では伝統的な儀式や祭がいまでも行われている。

一方、わずかに四万の日系人が日本の二十七倍もあるカナダに分散し、しかも他民族との婚姻もふえているとあって、移民二百周年を迎える前に一族グループとしての日系人は消えてしまうのではなか、という懸念もある。百年祭を計画したのも、そういう点を考えてのことであらう。

（日系カナダ市民協会百年祭委員会執行委員長）



トント市にある日加文化センター